

市民による、市民と地域のための大学

会場 宇治市生涯学習センター

宇治市民大学



令和八年度前期「歴史コース」

テーマ「古代、国家の形成③」

◆受講料

各講座一回 七百円

五枚綴りチケット 二千八百円

《歴史コース》と《宇治学コース》

で使えます

三月～五月の講座日に販売

◆定員 先着 二百名

◆申込み 講座日、会場で受付

致します 事前申込み不要

◆問合せ

TEL 090-8988-4383

宇治市民大学事務局 丸山

◆注意

生涯学習センター専用の駐車場は

ありません

第1講 3月7日(土) 午前10時～11時半
吉備における「反乱」伝承
～岡山県から出たかも知れなかった天皇～
京都産業大学名誉教授
井上 満郎さん

第2講 4月18日(土) 午前10時～11時半
小野妹子 ～推古朝の外交と氏族～
京都産業大学文化学部教授
吉野 秋二さん

第3講 5月2日(土) 午前10時～11時半
飛鳥・斑鳩の古代寺院の軒瓦と造営氏族
滋賀大学名誉教授
小笠原 好彦さん

第4講 6月6日(土) 午前10時～11時半
日本古代国家の成立過程と藤原宮・京
大阪大学人文学研究科
日本史研究室教授
市 大樹さん

第5講 7月4日(土) 午前10時～11時半
国家寺院の誕生と古代仏教の展開
立命館大学文学部
日本史研究学域教授
本郷 真昭さん

主催 宇治市民大学運営スタッフ会
共催 宇治市生涯学習センター

遣隋使 (けんずいし)
推古朝の時代に倭国が技術や制度を学ぶため隋に派遣した朝貢使の事を言う。
六〇〇年(推古八年)「六一八年(推古二六年)の十八年間に三回から五回
派遣され、六〇七年の遣隋使は天子という君主号を用いた。翌年には天皇と
改めたと『日本書紀』は記すが、懐疑的な意見もある。なお、日本の国号が
中国に対して使用されたのは七〇二年の遣唐使からである。

宇治市民大学 令和8年度前期講座

講師からのひとこと

3/7 吉備における「反乱」伝承

井上 満郎さん

～岡山県から出たかも知れなかった天皇～

日本の「古代」における「国家」の成立を考えると、主に材料になるのは『日本書紀』ですが、この書物は「勝者」が書いた歴史でして、国家建設において敗者になった側のことは書かれることがありませんし、書かれても勝者の立場からの記述です。そのなかでかろうじて敗者の側のことがそれなりに分かるのは、吉備（備前・備中。岡山県）でして、今回はこの吉備を題材にして日本の国家形成について考えてみます。

4/18 小野妹子

吉野 秋二さん

～推古朝の外交と氏族～

飛鳥時代、小野妹子はなぜ遣隋使に任命されたのか、帰国時に起きた「国書掠奪事件」と、それに向き合った推古天皇と群臣の議論を手がかりに、近江・山背における小野氏の勢力、推古朝の外交とそれを担った外交氏族の実像に迫ります。最新の研究成果を紹介し、一人の外交官を通して古代日本のドラマを読み解きます。

5/2 飛鳥・斑鳩の古代寺院の軒瓦と造営氏族

小笠原 好彦さん

本の本格的な古代寺院は、588年、飛鳥で蘇我馬子が飛鳥寺を造営したのに始まっている。この飛鳥寺は百済から訪れた建築工人や造瓦工人らの指導のもとに建立されている。以後、日本の古代寺院の屋根に葺かれた軒瓦の文様は、百済の文様をもとに展開することになった。また、初期の古代寺院は、大和の飛鳥と斑鳩の地を中心として多くの氏寺が建てられている。ここでは、発掘で出土した軒瓦から、飛鳥と斑鳩で、どのように古代氏族よって古代寺院が造営されたかを述べる。

6/6 日本古代国家の成立過程と藤原宮・京

市 大樹さん

藤原遷都は694年ですが、すでに676年に建設が始まっていました。しかし、ようやく完成したのは703年頃のことです。ところが、翌年には30数年ぶりに派遣された遣唐使が帰国し、最新の唐長安城を意識した新たな都の建設を決意、710年の平城遷都につながります。今回の講座では、日本古代国家の成立過程と連動させながら、藤原宮・京の展開過程について考えてみます。

7/4 国家寺院の誕生と古代仏教の展開

本郷 真紹さん

7世紀後半の天武・持統朝において、朝廷は新たな中央集権体制の樹立に貢献させるべく、仏教をその保護下に置き、人々を統制する手段として機能させようとしていました。天皇の創建にかかる寺院などを官大寺と位置付け、また仏教の興隆を担う僧尼も、国家のために奉仕する身分として、一般の人々との差別化を図ります。このようにして成立する国家仏教の具体的な内容と、奈良時代以後の展開について、具体的に検討してみたいと思います。